



農作物の高温対策について

気象庁の2週間気温予報（6月20日発表）によると24日から気温が高くなると予想されます。高温が続くことで、農作物の生育が早まることが予想されますので、作業計画の見直しを検討してください。また、下記を参考に農作物の管理作業を行ってください。

野菜全般

（茨城県農業総合センター：梅雨時期の高温に対する技術対策より抜粋）

1)かん水

高温が予想される場合は、早朝・夕方に実施し、必要に応じてかん水回数を増やす。

2)地温上昇抑制・土壌水分保持

地温抑制マルチや敷わら等を活用する。

3)施設栽培における適切な温度・湿度管理

妻面・側面・天窓の解放、循環扇の利用で通気性を確保する。遮光資材等の使用で温度上昇を抑制する。

4)風通し

こまめな除草、整枝・剪定・下葉の処理を行う。苗床では、コンテナなどによる育苗箱のかさ上げや苗の間隔を十分に確保する。



茎葉野菜

1)チップバーン対策

乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤散布時にカルシウム剤を混用する。※
（※ 銅剤などアルカリ性資材との混用はしない）

2)ほ場の排水対策

ネギでは白絹病・軟腐病が発生するリスクが高まるので特にほ場の排水対策に努める。



果菜類

1)かん水

しおれ予防のためにこまめにかん水する。

2)着果負担軽減

不良果の摘果や早めの収穫を行う。適切なかん水・施肥により樹勢を維持する。

3)水分の過剰な蒸散や呼吸抑制

老化した葉、黄化した葉を中心に適切に摘葉する。

4)カルシウム欠乏等の生理障害対策

カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。

果樹



（ブドウ）

1)果房への笠かけ

果粒軟化期前の果房は、日焼け症、縮果症などの生理障害が発生しやすいので、果房に傘かけ（紙製の傘）を行う。

2)かん水

根域が浅いので、株元の根域への少量・多数回のかん水を行う。晴れた日は、午前中に毎日かん水する。

ほ場の夜温を下げるため、夕方の散水も有効であるが、過散水は多湿となり病害発生を助長するので注意する。

花き

1)採花

切り花は、朝夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。

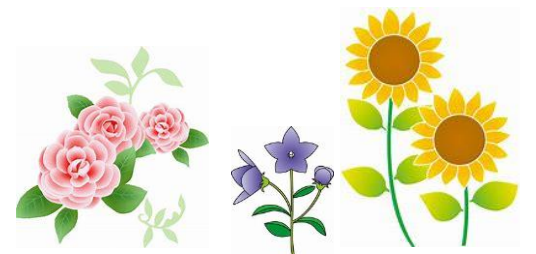
2)劣化防止

エチレンによる劣化を防ぐため前処理剤を使用し、品質の維持に努める。

3)施設栽培における適切な温度・湿度管理

施設栽培では、施設内の温度上昇を抑制するため、妻面・側面を開放するとともに、遮光資材等を使用する。

細霧冷房装置や換気装置の使用により適切な温度および湿度の管理に努める。



- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。